

『CDP回答から見る、日本企業のTNFDフレームワークへの対応状況』2025/7/9

Transition Towards a Sustainable Planet.

CO₂の見える化で社会を変える

環境と経済の両立を通して、循環型社会および脱炭素社会の構築に貢献します。

CDP2024回答結果分析

『CDP回答から見る、日本企業のTNFDフレームワークへの対応状況』

Executive Summary

まとめ

- 0 TNFD概要、CDP質問書の整合状況、分析対象質問
ガバナンス(4.1.1)、リスク管理(2.2, 2.2.1, 2.2.2)、戦略(3.1、2.3)
- 1 ガバナンス – 取締役レベルでの監督状況
ウォーター：70%、フォレスト：62%。気候変動：98%と比べると低い。
- 2 リスクとインパクトの管理 – 依存・インパクト・リスク・機会の特定・評価・管理プロセス
 - ・ 78%が依存・インパクトを対象としたプロセスあり。うち82%は依存・インパクト両方対象
 - ・ プロセスの対象範囲にバリューチェーンを含むのは69%。拠点・地域レベルでの特定・評価・管理を行っているのは66%。
- 3 戦略 – リスク特定状況
ウォーター：63%、フォレスト：48%がリスク特定。但しバリューチェーンを含めて特定できているのは、ウォーター：40%、フォレスト36%
- 4 戦略 – 優先地域特定状況
ウォーター：31%、フォレスト：31%とまだ少ない。

TNFDは「企業が自然関連課題に対処するためのリスク管理と情報開示の枠組み」 TCFDの“自然版”

💡 TNFD (Task force on Nature-related Financial Disclosure) とは？

自然関連財務情報開示タスクフォース

- 企業が自然関連課題に対処するためのリスク管理（LEAPアプローチ）と情報開示の枠組みを開発
- TCFD (Task force on Climate-related Financial Disclosure) の“自然版”
- 2021年にスタート、ベータ版、パイロットテストを経て、2023年9月に初版公表



出典：TNFD「自然関連財務情報開示タスクフォースの提言」

TCFDをベースとした、4つの柱、14の開示提言項目。CDP質問書は2024年から部分的に整合

⚙️ TNFD開示提言項目

- TCFDと同様の4つの柱
14の開示項目
TCFDから引き継がれた11項目
+ TNFD独自の3つの追加項目(★)
- TNFD追加項目
ステークホルダーエンゲージメント
優先地域の特定
バリューチェーン全体
依存とインパクト
- CDP質問書は2024年から部分的に整合

2024 CDP質問書との整合レベル

- 完全な整合
- かなり整合
- 部分的な整合
- ほとんどまたは全く整合しない

★ TNFD追加
開示提言項目

ガバナンス	戦略	リスクとインパクトの管理	測定指標とターゲット
自然関連の依存、インパクト、リスクと機会の組織によるガバナンスの開示。	自然関連の依存、インパクト、リスクと機会が、組織のビジネスモデル、戦略、財務計画に与えるインパクトについて、そのような情報が重要である場合は開示する。	組織が自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を特定し、評価し、優先順位付けし、監視するために使用しているプロセスを説明する。	マテリアルな自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を評価し、管理するために使用している測定指標とターゲットを開示する。
開示提言	開示提言	開示提言	開示提言
A. 自然関連の依存、インパクト、リスクと機会に関する取締役会の監督について説明する。	A. 組織が特定した自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を短期、中期、長期ごとに説明する。	A(i) 直接操業における自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を特定し、評価し、優先順位付けするための組織のプロセスを説明する。	A. 組織が戦略およびリスク管理プロセスに沿って、マテリアルな自然関連リスクと機会を評価し、管理するために使用している測定指標を開示する。
B. 自然関連の依存、インパクト、リスクと機会の評価と管理における経営者の役割について説明する。	B. 自然関連の依存、インパクト、リスクと機会が、組織のビジネスモデル、バリューチェーン、戦略、財務計画に与えたインパクト、および移行計画や分析について説明する。	A(ii) 上流と下流のバリューチェーンにおける自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を特定し、評価し、優先順位付けするための組織のプロセスを説明する。★	B. 自然に対する依存とインパクトを評価し、管理するために組織が使用している測定指標を開示する。
C. 自然関連の依存、インパクト、リスクと機会に対する組織の評価と対応において、先住民族、地域社会、影響を受けるステークホルダー、その他のステークホルダーに関する組織の人権方針とエンゲージメント活動、および取締役会と経営陣による監督について説明する。★	C. 自然関連のリスクと機会に対する組織の戦略のレジリエンスについて、さまざまなシナリオを考慮して説明する。	B. 自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を管理するための組織のプロセスを説明する。	C. 組織が自然関連の依存、インパクト、リスクと機会を管理するために使用しているターゲットと目標、それらと照合した組織のパフォーマンスを記載する。
	D. 組織の直接操業において、および可能な場合は上流と下流のバリューチェーンにおいて、優先地域に関する基準を満たす資産および/または活動がある地域を開示する。★	C. 自然関連のリスクを特定、評価、優先順位付け、監視するためのプロセスが組織全体のリスク管理にどのように組み込まれているかについて説明する。	

出典：CDP「質問書回答ウィズナー 自然関連情報開示と目標設定 (2024年7月19日)」

LEAPアプローチ：自然関連の依存、インパクト、リスク、機会を特定・評価・管理するアプローチ

LEAPアプローチ

LEAP (Locate: 発見, Evaluate: 診断, Assess: 評価, Prepare: 準備)

自然関連の依存、インパクト、リスク、機会を特定・評価・管理するためのアプローチ



TNFD開示提言項目、CDP質問(2024)対応表

分析対象質問

出典：CDP「Correspondence between TNFD Disclosure Recommendations and CDP's 2024 Questionnaire」

ガバナンス		戦略		リスクとインパクトの管理		指標と目標	
A	4.1.1, 4.1.2 4.2 4.5, 4.5.1	A	1.22 2.1, 2.2.7, 2.3, 2.5.1 3.1.1, 3.2, 3.6.1	A (i)	2.1, 2.2.2, 2.2.6(FS), 2.4, 2.5	A	3.1.1, 3.1.2 3.2, 3.3, 3.3.1, 3.3.2 3.6.1, 3.6.2 9.3, 9.5
			前段の質問として3.1を対象とし分析	A (ii)	1.5, 1.24 2.1, 2.2.1, 2.2.2, 2.2.5(FS), 2.2.6(FS), 2.2.7, 2.2.8(FS), 2.2.9(FS) 5.11.1, 5.11.2, 5.11.3, 5.11.4 6.1 8.1.1, 8.11.1		
B	4.3, 4.3.1	B	2.5.1 3.1.1, 3.2, 3.3.2, 3.6.1 5.2, 5.3, 5.3.1, 5.3.2 5.9, 5.11.1, 5.11.2, 5.11.3(FS), 5.11.4(FS), 5.11.5, 5.11.6, 5.11.7, 5.11.8, 5.11.9, 5.12(SC), 5.13.1(SC), 5.14(FS), 5.14.1(FS), 8.7.2, 8.8, 8.8.1, 8.9.1, 8.9.2, 8.11.1, 8.15.2, 8.16.1, 8.17.1 9.15.2 10.1 11.4.1, 12.7.1(FS)	B	2.2.2 2.2.6(FS) 2.2.7	B	1.22 3.1.1, 3.6.1 5.11 8.2, 8.3, 8.4.1, 8.9, 8.9.1, 8.9.2, 8.9.3, 8.9.4, 8.10.1, 8.17.1 9.2.4, 9.2.8, 9.2.9, 9.2.10, 9.3.1 10.3, 10.4, 10.5, 10.5.1, 10.6, 12.1.3(FS)
C	2.2.2, 2.2.6(FS) 4.6.1 4.11, 4.11.1, 4.11.2 5.3.1 5.11.2, 5.11.6, 5.11.7, 5.11.8, 5.11.9 8.15.2, 8.16.1	C	3.1.1 5.1.1, 5.1.2 5.3.1, 5.3.2	C	2.2.2 2.2.6(FS)	C	8.7, 8.7.1, 8.7.2 9.15.1, 9.15.2 12.7(FS), 12.7.1(FS)
		D	2.3, 3.2 8.3, 8.4.1, 9.3.1 11.4.1				

ウォーターについて取締役会レベルでの監督があるのは70%。気候変動(98%)と比べると低い。

▶4.1.1 貴組織では、取締役会レベルで環境課題を監督していますか。

取締役会レベルでの監督あり



70%

n=810



気候変動

98%

n=1339

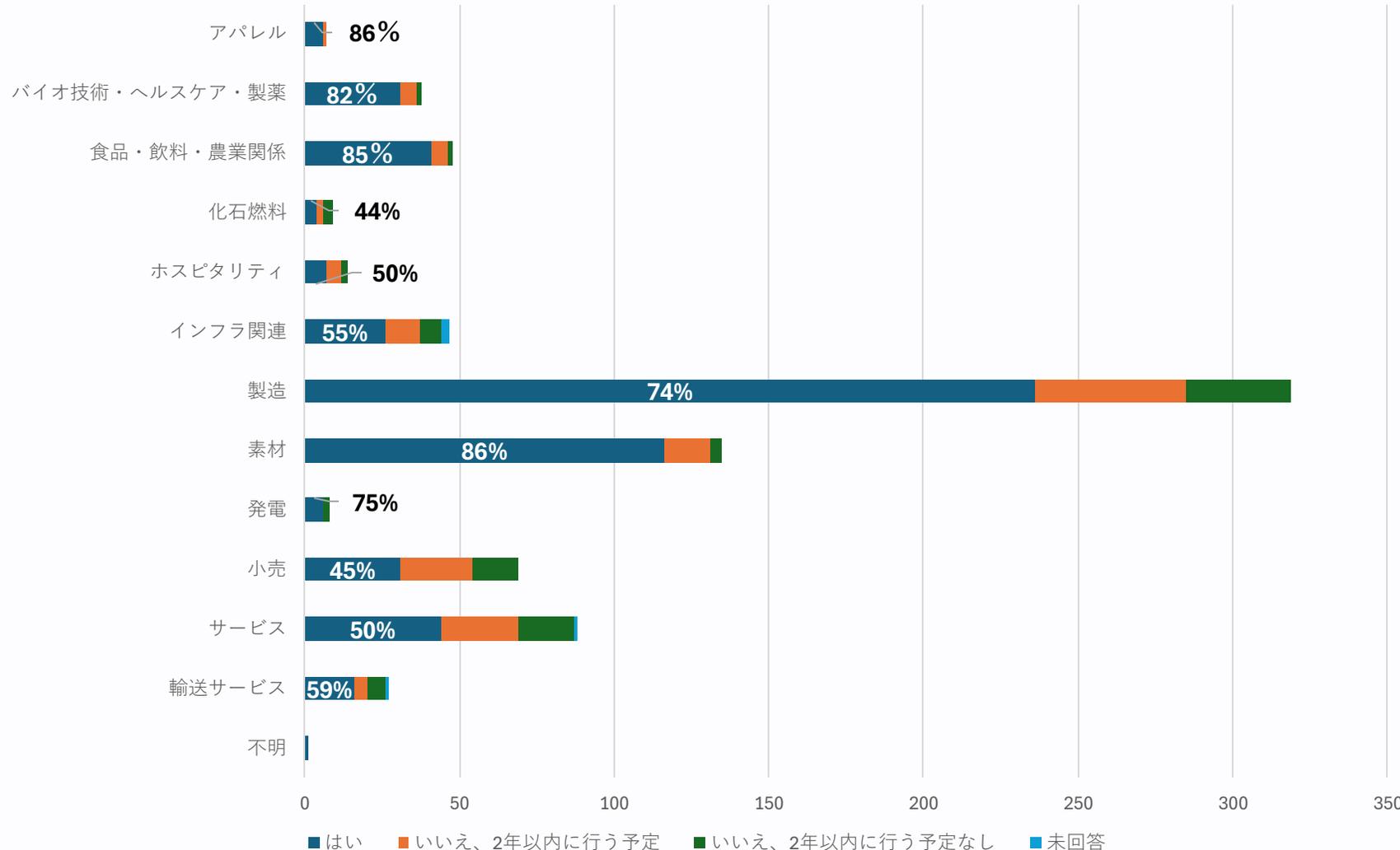


生物多様性

40%

n=1304

- 70%が対応しているが、気候変動の98%と比べると低い
- セクター別では、素材、アパレル、食品・飲料・農業関係、バイオ技術・ヘルスケア・製薬等が対応企業の割合が多い



フォレストについて取締役会レベルでの監督があるのは62%。気候変動(98%)、水(70%)と比べると低い。

▶4.1.1 貴組織では、取締役会レベルで環境課題を監督していますか。

取締役会レベルでの監督あり



フォレスト

62%

n=246



気候変動

98%

n=1339

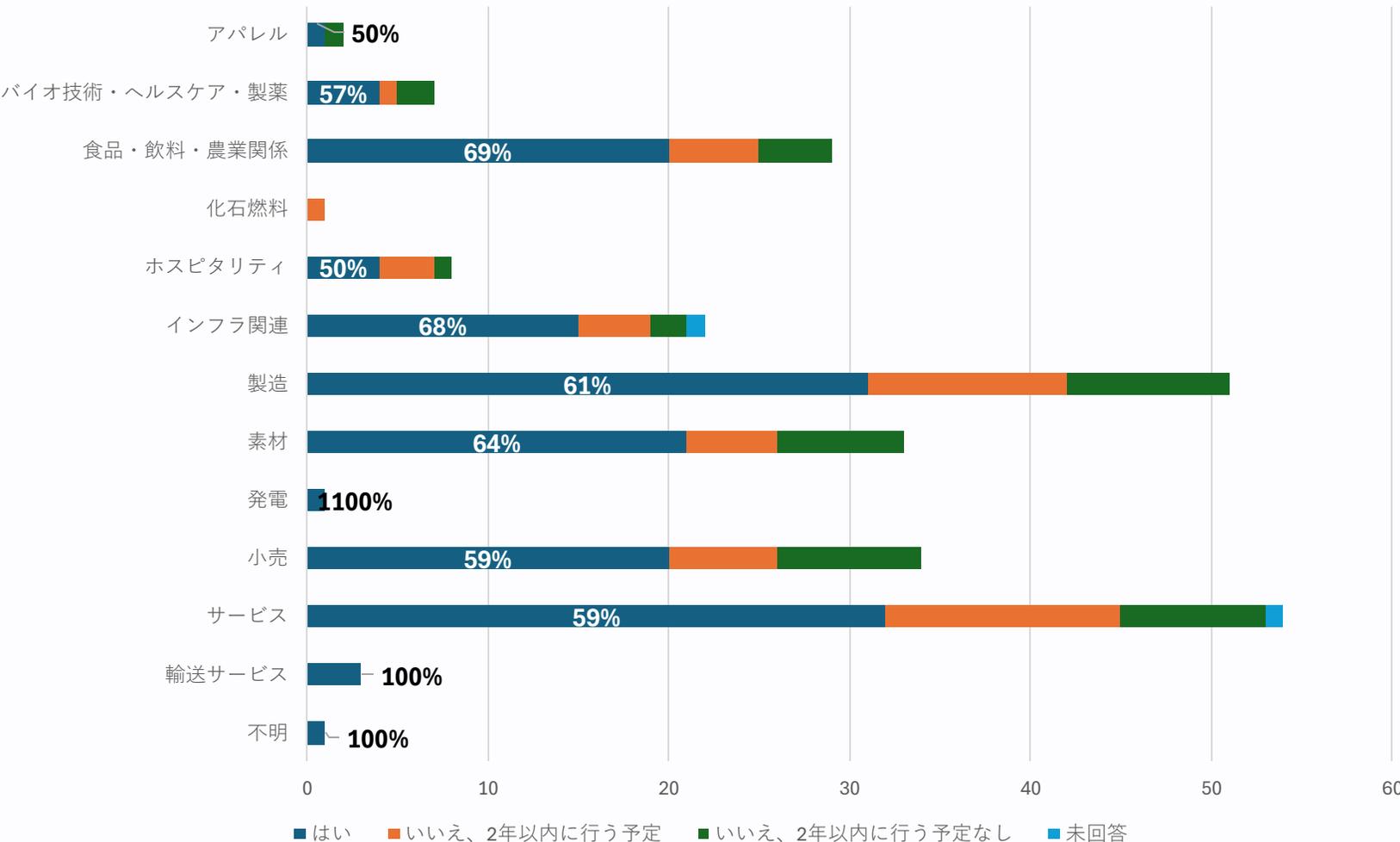


生物多様性

40%

n=1304

- 62%が対応しているが、気候変動の98%、ウォーターの70%と比べると低い
- セクター別では、食品・飲料・農業関係、インフラ関連、素材等が対応企業の割合が多い
- TNFDフレームワークに沿ってウォーター・フォレストも統合的に対応していくことが期待される。



78%が依存とインパクトの特定・評価・管理プロセスあり。うち82%は依存とインパクトの両方を対象

リスクと機会の特定、評価、管理

▶2.2 貴組織には、環境への依存やインパクトを特定、評価、管理するプロセスがありますか。

リスク・機会特定、評価、管理プロセスあり

78% n=1352

依存とインパクトの特定、評価、管理

▶2.2.1 貴組織には、環境リスクや機会を特定、評価、管理するプロセスがありますか

依存・インパクト特定、評価、管理プロセスあり

78%

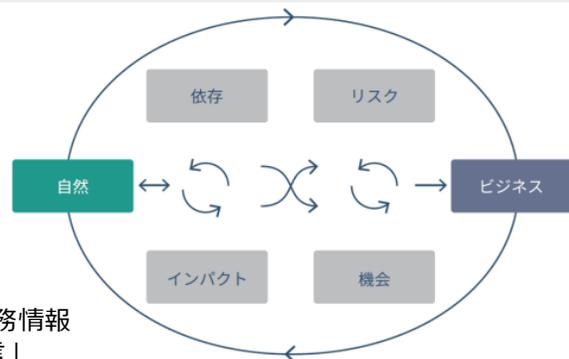
プロセスありのうち依存とインパクト両方対象 **82%**

💡 依存とインパクトとは？

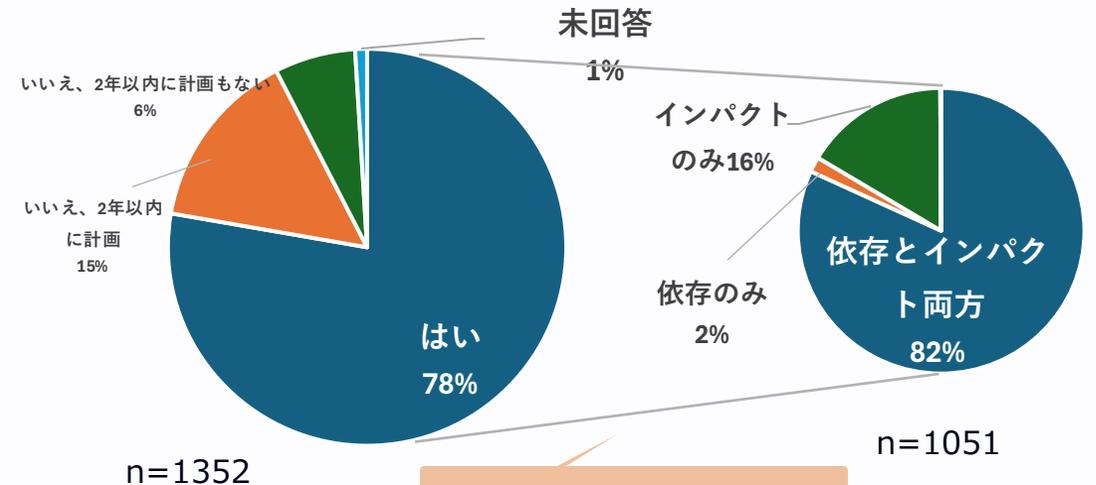
依存:
組織が機能するために依存している環境資産および生態系サービスの要素
“自然の恩恵”

インパクト:
社会的・経済的機能を提供する自然の能力が変わってしまうような自然の状態（質または量）の変化のこと。
“組織が自然に対して引き起こす、または寄与するもの”

✓ 自然への依存やインパクトからリスクや機会が発現する



出典：TNFD「自然関連財務情報開示タスクフォースの提言」

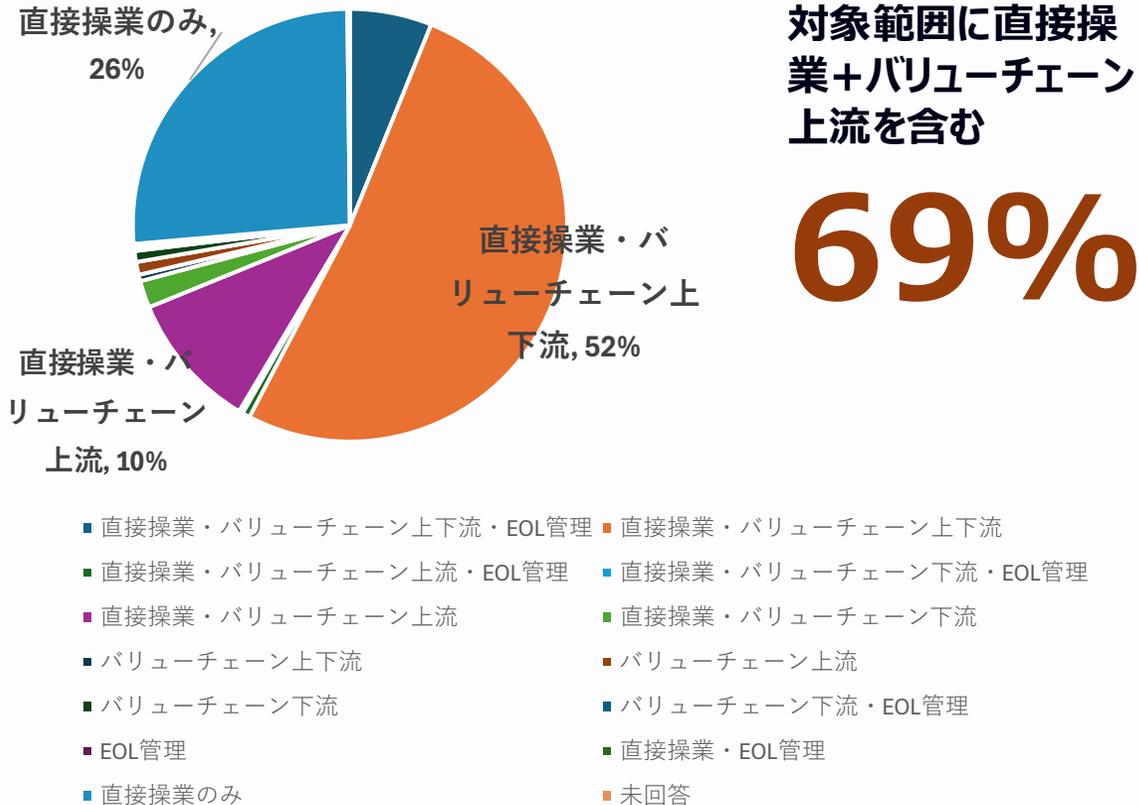


依存が特に難しさあり？

バリューチェーン上流を含めているのは69%、拠点固有や近隣地域レベルで特定・評価できているのは66%

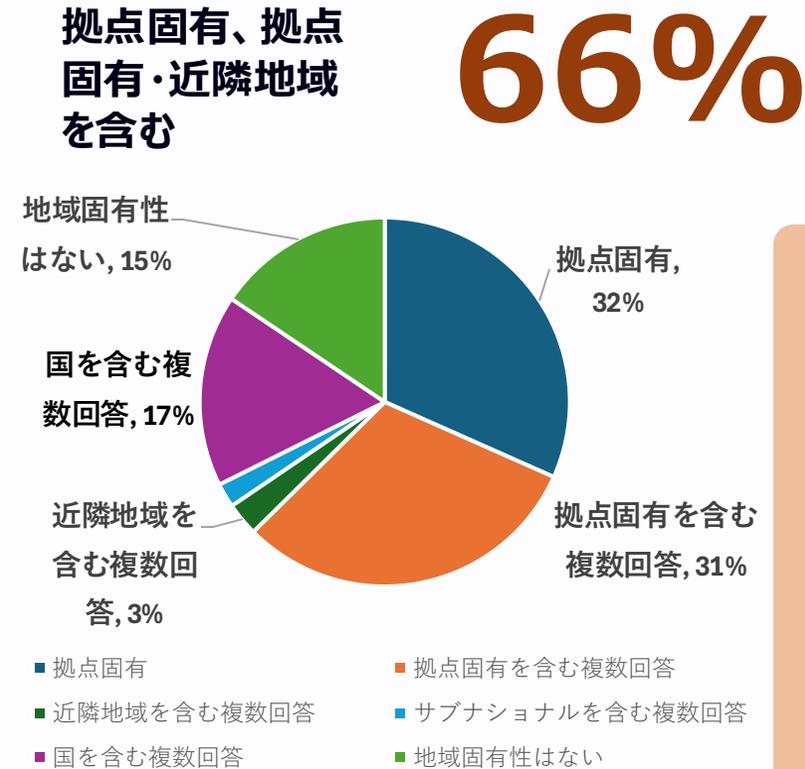
2.2.2 環境への依存性、影響、リスク、機会を特定、評価、管理するための組織のプロセスの詳細を提供します。

対象バリューチェーンの範囲



n=2081(複数回答あり)

場所の固有性

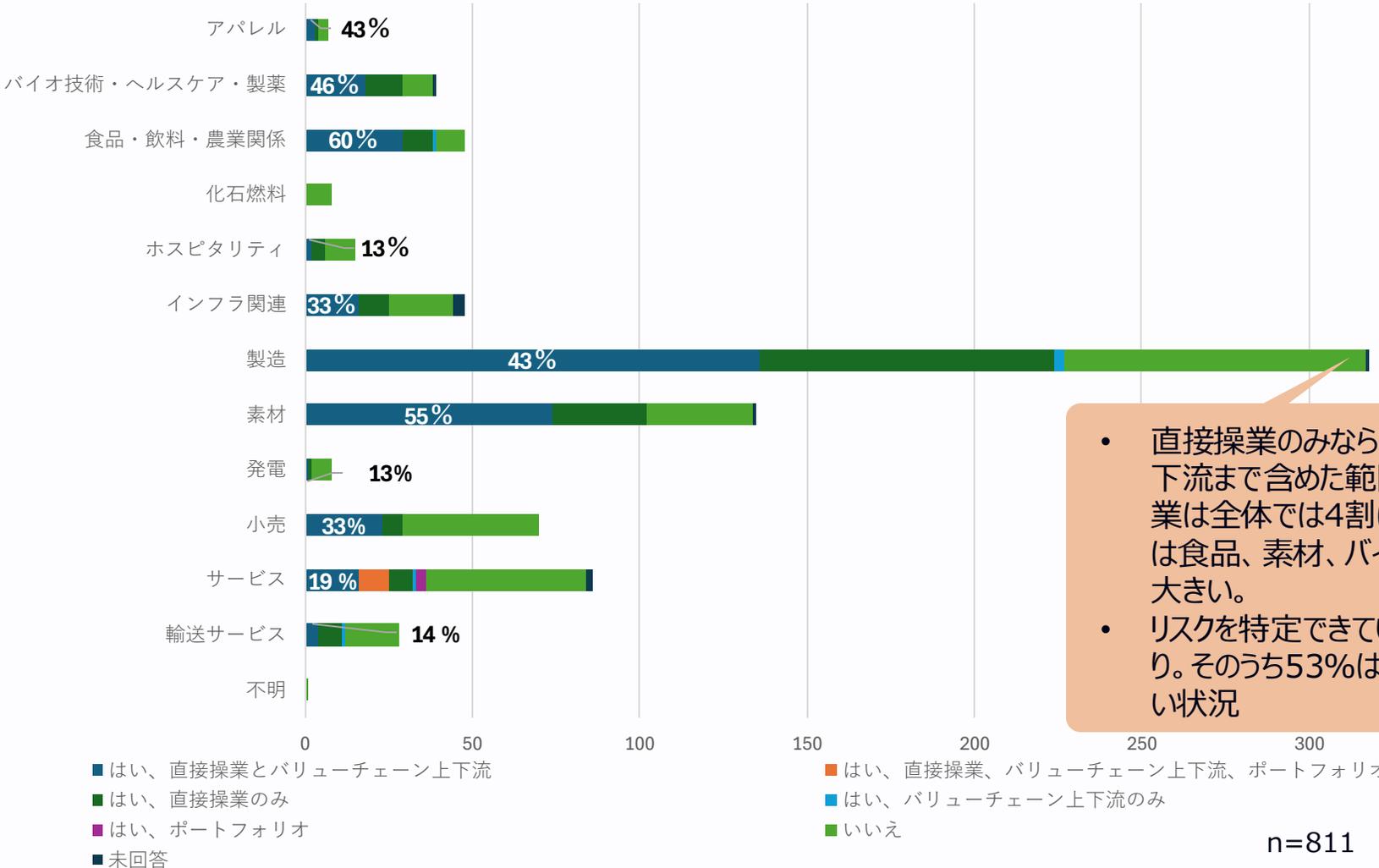


n=2065(複数回答あり)

- バリューチェーンを対象にできているところが多いものの、直接操業のみに限定も26%あり
- 拠点・地域固有の評価ができているところが多いものの地域固有性なしも15%あり

ウォーターについて重大リスクを特定している企業は63%。バリューチェーン上下流を含めているのは40%

▶3.1 報告年の間に貴組織に重大な影響を及ぼした、あるいは将来的に重大な影響を及ぼすと考えられる何らかの環境リスクを特定していますか。



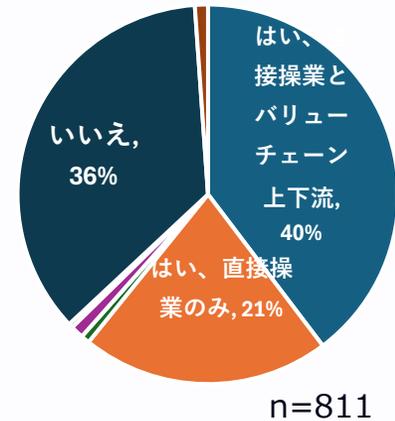
重大リスク特定あり

63%

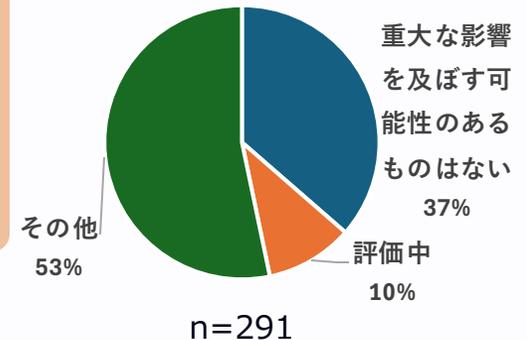
そのうち直接操作とバリューチェーン上下流対象

40%

- 直接操作のみならずバリューチェーン上下流まで含めた範囲で特定できている企業は全体では4割に留まる。セクター別では食品、素材、バイオ、製造等で割合が大きい。
- リスクを特定できていない企業も36%あり。そのうち53%はまだ評価ができていない状況

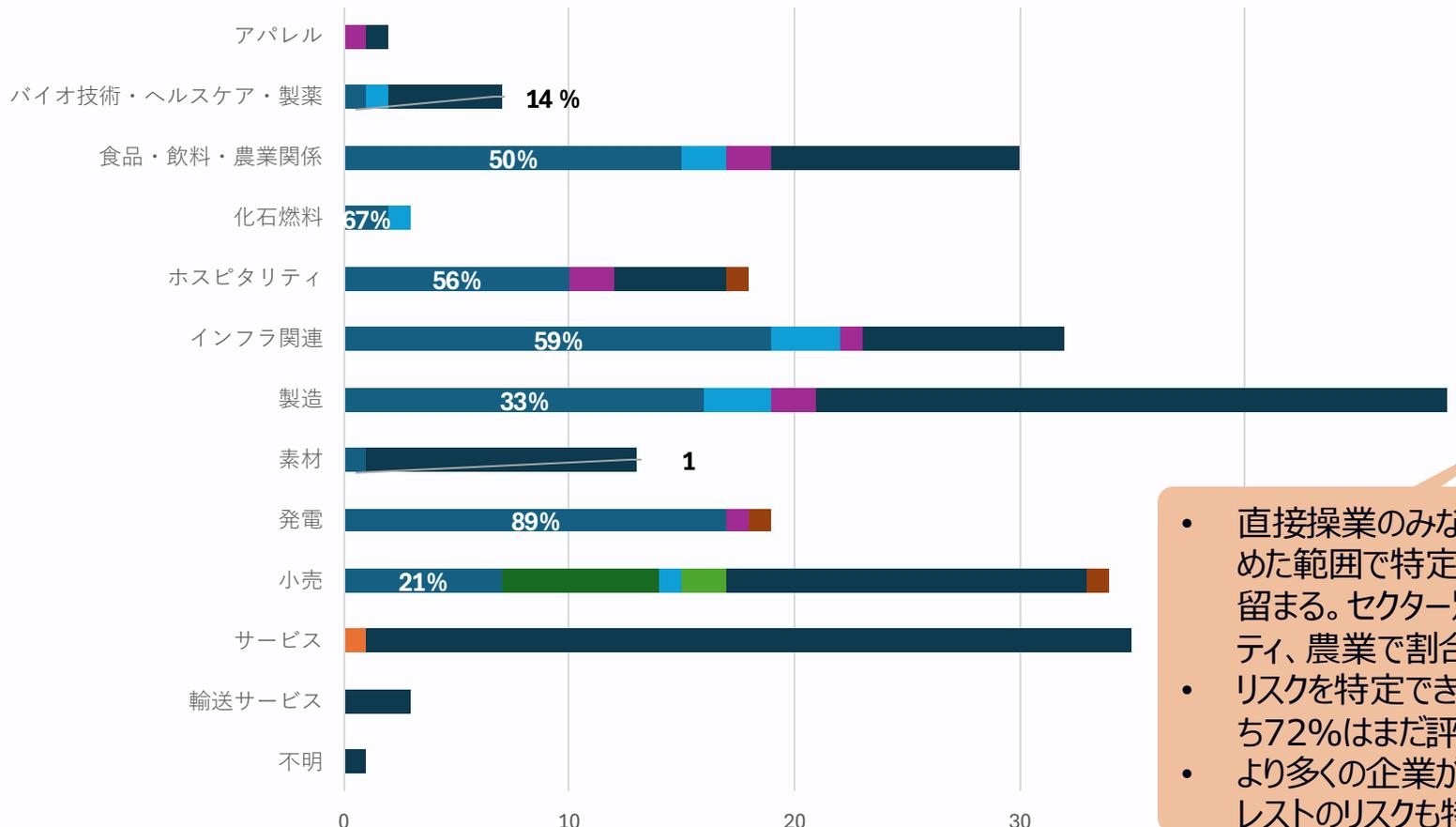


いいえの理由



フォレストについて重大リスクを特定できているのは48%。バリューチェーン上下流を含めているのは36%

▶ 3.1 報告年の間に貴組織に重大な影響を及ぼした、あるいは将来的に重大な影響を及ぼすと考えられる何らかの環境リスクを特定していますか。



■ はい、直接操業とバリューチェーン上下流
 ■ はい、直接操業がバリューチェーン上下流とポートフォリオ
 ■ はい、バリューチェーン上下流のみ
 ■ いいえ

■ はい、直接操業のみ
 ■ はい、ポートフォリオ
 ■ 未回答

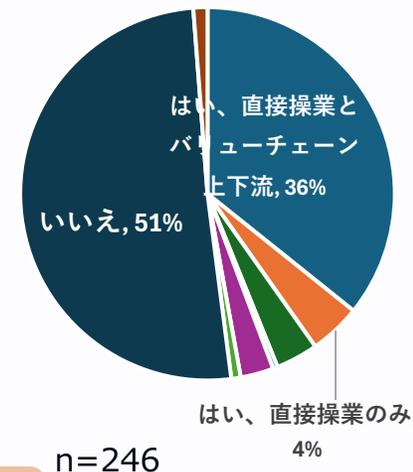
n=246

重大リスク特定あり

48%

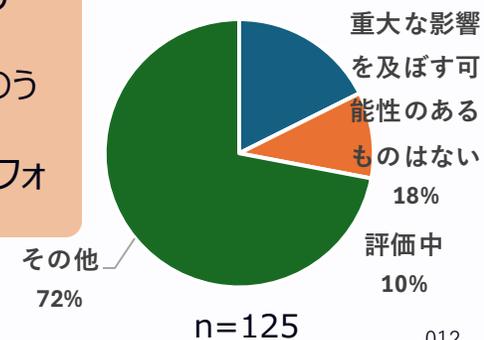
そのうち直接操業とバリューチェーン上下流対象

36%



• 直接操業のみならずバリューチェーン上下流まで含めた範囲で特定できている企業は全体で36%に留まる。セクター別では発電やインフラ、ホスピタリティ、農業で割合が大きい
 • リスクを特定できていない企業も51%存在。そのうち72%はまだ評価ができていない状況
 • より多くの企業が、プロセスに沿って、ウォーター、フォレストのリスクも特定していくことを期待

いいえの理由



012

ウォーター、フォレストとも現在特定しているのは31%割、約1割は現在特定中

優先地域とは？

■ 組織がバリューチェーン内で特定した場所で、組織が自然関連の重大な依存、インパクト、リスク、機会を抱えている
要注意地域またはその付近にあるため、**最も緊急に行動を優先する必要がある場所** (出典: TNFD)

■ 要注意地域

- 生物多様性にとって重要な地域
- 生態系の十全性が高い地域
- 生態系の十全性が急速に低下している地域
- 水の利用可能性が低い、洪水による影響が高い、または水質が劣悪な地域
- 生態系サービスの提供にとって重要な地域

■ 重大な依存、インパクト、リスク、または機会がある地域

- 森林に関連する重大な依存、インパクト、リスク、または機会がある地域
- 水に関連する重大な依存、インパクト、リスク、または機会がある地域
- 生物多様性に関連する重大な依存、インパクト、リスク、または機会がある地域

CDP2025回答ガイドンス、質問2.3選択肢より

▶ 2.3 バリューチェーン内の優先地域を特定しましたか。

ウォーター

優先地域を特定

31%

特定中

12%

フォレスト

優先地域を特定

31%

特定中

10%

特定中を合わせても約40%

